

むかし原発 いま炭鉱

『三池～終わらない^{やま}炭鉱の物語』上映&熊谷博子監督トーク
7/12(木)@大阪、13(金)@神戸



参加費 1000 円

★大阪会場

日程 7月12日(木)

会場 シアターセブン (大阪・十三)

共催 NPO 法人淀川文化創造館

13:00～ 第1回上映

16:00～ 第2回上映

18:30～ 第3回上映

20:20～21:00 熊谷さんトーク

21:00～21:30 著作サイン会

21:30～22:30 会場で交流会 (ワンドリンク・軽食 1500円)

※どの回で鑑賞されてもトークにご参加できます。

★神戸会場

日時 7月13日(金) 18:20～20:40 (17:50開場)

会場 こうべまちづくり会館 (神戸・元町)

お申し込みなしでどなたでもご参加できますが、
人数把握のために事前にご連絡いただければありがたいです。
市民社会フォーラム civilesocietyforum@gmail.com まで

ドキュメンタリー映画『三池 終わらない炭鉱 (やま) の物語』
(2005年)を監督し、『むかし原発 いま炭鉱 ～炭都[三池]から
日本を掘る』(中央公論社、2012年)を著した、熊谷博子さんをお招きし、
上映とトークを開催します。

「三池炭鉱を振り返れば、そこで働いている人々の事情などお構いなしに、国の利益を優先して政府、経済界、学者が連携する構造があった。原発政策もまったく同じ根っこを持っている。」
政府が地方にエネルギー開発基地を押しつけている、いびつな構造をあぶり出す視点で、熊谷さんは、「国とエネルギーの歴史を見直さずにここまで来てしまっているのが最大の問題だろう。三池から、日本の『根っこ』を考えてほしい」(『東京新聞』5/13)と訴えています。

3.11 原発事故を体験した今だからこそ、「三池」の歴史から日本の「根っこ」をともに考えましょう。



【熊谷博子 (くまがい・ひろこ) さん】

1951年東京生まれ。1975年より、日本映像記録センターにて、ディレクターとして、TVドキュメンタリーの制作を開始。戦争、原爆、麻薬などさまざまな社会問題を追い、1985年にフリーの映像ジャーナリストとして独立。これまで各テレビ局で50本を越すドキュメンタリー番組を作る。TV番組のほかにも、戦時下のアフガニスタンに生きる人々を描いた『よみがえれカレーズ』(89年 土本典昭と共同監督)、自らの育児経験をもとにした『ふれあうまち』(95年)、日本の女性監督たちの格闘を描いた『映画をつくる女性たち』(04年)などのドキュメンタリー映画を多数監督する。右手にカメラ左手にこども、がモットー。

【『三池～終わらない炭鉱の物語』】

オフィス熊谷/2005/1時間43分 監督:熊谷博子 撮影:大津幸四郎 協力:三池炭鉱に生きた人々 企画:大牟田市、大牟田市石炭産業科学館 2006年度 日本ジャーナリスト会議特別賞 2006年度 日本映画復興賞奨励賞

1997年3月30日、日本で最大の規模を誇った三池炭鉱は閉山しました。でもその歴史を、「負の遺産」と言うひともいます。囚人労働、強制連行、三池争議、炭じん爆発事故…。過酷な労働を引き受け、誇り高くやまに生きた男と女たちの証言を聞き続け、7年がかりで完成させました。勇気をもって命がけで生きること。そのひたむきな力。今さらではなく、今だからこそ未来への思いを込めて伝えたい。150年以上にわたる、三池炭鉱の歴史に、初めて正面から向き合った映画です。

■会場アクセス 【シアターセブン】



大阪市淀川区十三本町1-7-27 サンポードシティ5階
TEL/FAX:06-4862-7733 阪急電車 十三駅、西改札口5分
【こうべまちづくり会館】



神戸市中央区元町通4-2-1 4 (元町商店街4丁目西端の南側角) /地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分/神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分、「西元町」東口から東へ5分/JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分



『むかし原発 いま炭鉱
～炭都[三池]から日本を掘る』刊行のご案内
熊谷 博子

5年がかりで書いた本です。

映画「三池 終わらない炭鉱 (やま) の物語」の画面には、撮影しても入らなかったことも多く、上映を続ける中で、様々な方と出会いながら発見したことはさらに膨大でした。それを伝えたくて、その後ずっと本を書き続けていました。

三池の坑道は、あらゆるところにつながっています。しかもエネルギー問題は日本の裏の事情ともつながっており、事実を掘り出し、つなぎ合わせ、確かめていくのは大変な作業でした。その間に改めて、自分の無知を恥じたりもしました。

何とか完成に近づいたかな、と思った時に、3・11が起きました。また全面的に書き直すことになりました。

原発の問題が急に起きたわけではなく、日本の奥深い所にじっと横たわっていました。炭鉱から原発に至る見えない坑道があります。

埋められていることがあまりに多すぎます。しかもそのすべてが現代に通じ、何も終わっていないことを実感。

日本の根っこを掘り、そして今を描く、かなりの大作になってしまいました。厚い本ですが、次々出てくる新事実一気に読めます。

3・11以降の大事な1冊です。

タイトルには、もう原発はやめにしてくれ、という思いを込めました。炭鉱から始まる、日本という国を支え、今も支えている人々の姿をきちんと見直そう、という思いもあります。

きっと読めば涙が滲みます。

地震と津波と原発事故を体験した私たちが、この時代に、未来に向けて新たな坑道を掘り、ともに進むことができる本だと確信しています。ぜひ、お読み下さい。

『むかし原発 いま炭鉱 ～炭都[三池]から日本を掘る』
中央公論新社 2,300円(税別)